

技術士だより

-(社)日本技術士会九州支部・九州地方技術士センター冬季号<第14号>(平成4年12月15日発行)

◇巻頭言

共に汗を流す

土居 貞夫 (技術士会 理事)

11月13日第5回地方公共団体職員と技術士との合同セミナーが、北九州市は小倉北区において開催、今ここに盛大且つその意味を尽くしたセミナーが、千客万来の拍手と皆さんの満ちた喜びの顔によってそれは評価されたと、私は思わず、あゝよかった・・・、第1回セミナーの熊本から、鹿児島、宮崎と過去の思い出が、去来したものでした。この喜びは、北九州地区会員の皆さん方々の努力はもとより、支部役員を始め、多くの会員の支えがあったること、共にその目標に向かっての清らかな汗を流し努力した賜物だと思います。

原井現支部長は常々“継続は力なり・数は力なり・協調は力なり”を標榜し着実に事業を推進その成果は我々の大いに利する所でありご同慶にたえません。今この“技術士だより”も第1号(平成元年8月5日発行)今日迄年月(とつき)重ねて第14号を数えることになりました。之も後に続いた皆さん方の努力辛抱、より充実した紙面は、今の現状においては最良のものではないでしょうか、その目的とする所に向かっていることも、又この作業に携わり尊い汗を流してられる多くの会員のいることを、皆さんは心していられることでしょう。

継続すること、共にその志を同じゅうし、互いに手を取り合うことと、励まし合うことで、己を忘れて他を利する人こそ、共に汗を流す人ではないでしょうか。

今日支部・センターでの、部会の活動然り、受験セミナーも、会員増強も又然り、会員皆さん共々、日日新たに汗を流していることこそ尊いものだと思います。

過日11月12日の東京で、本年度第4回の理事会の開催される直前でしたか、中部支部の川浦支部長さんが本理事会に政策委員会提案の会員増強のすすめ方についての配布資料を見られ、九州支部の会員増強が他の支部より異常な程の伸びだ、中部支部は抜かれるかも知れない、こんなに会員数が伸びたのは、その秘訣は何ですかと、私の席へこられて尋ねられた。私は即座に、九州支部では平成元年から毎年10月から翌年2月迄の期間を会員増強月間とし、その運動は man to manにより会員の総ての方が対応努力した、一人一人の汗の結晶ですと。理事会開催前のほんの僅かな時間のやりとりでしたが、こうして私達の流した汗の評価は他(他)の人がしてくれることですが、会員増強は、ひとり、一人(ひとり)の汗が、一人の会員を誘うことになるのです。全く私達が共に汗を流す代償でしょうか。

最後になりましたが、昔中国古代黄河流域に殷(いん)という国に湯王という王様がいました。善政を行ったといいます。この王様は顔を洗う金(か)だらいに「苟日新日日新又日新」と銘(めい)をうち、使用する度(たび)にその文字を読んだということです。この言葉を日本流に読み書き改めましたら「まことに日に新たに、日に新たに、又日に新たなり」ということになるんだそうで、その意味は、日ごとに自分自身の心を新たにし、面目を新しくしていく。

一日ごとに向上進歩するようにと、今日の決意を新しく湯王は金だらいの銘を見たことでしょう。3000年前のこの昔の言葉は生きて、私達に投げかけていると思い、日進月歩努力と向上進歩には汗はつきものと思います。

私は毎朝、顔を洗うに鏡とにらみあいしては色々な一日の出来事を想定して、その折々の表情を鏡に映(うつ)しては、一日の決意をし、他人を利するに汗を流そうと思っております。努力しよう。汗は流して見るものです。他人を喜ばす汗を共に流しましょう。

貴方のために……………

1人でも多くの入会をお勧め下さい

↓ 私の提言 会員増強のこと

水上 信昭 (副支部長・福岡・建設部門・地区代表幹事)

平成4年度の技術士試験も、12月になると口頭試験の最中である。今年の九州地方技術士センター受験対策セミナー受講者は、筆記試験対策85名、口頭試験対策52名、で今年は例年に比べ、参加者が多く、受験対策委員会の方々は、大変な御苦労だったと思います。特に古賀事務局長の資料複製の御苦労は大変でした。皆様の献身的御努力に対し敬意を表します。

私は、昭和63年の第15回技術士会全国大会開催準備に、支部役員として参画し、その後特に会員増強に対し力を入れて来ました。

技術士試験は、昭和44年、F市現役時代に合格し、センター会員に入っていましたが、仕事の都合で余り支部、センターのお手伝いは出来ませんでした。試験合格時に、出身校(現M大土木会)の同窓会名簿に(技術士)と記載しましたが、今でも同大学土木会の名簿には毎年、1~3名程追記されています。同大学の調査によれば、現在合格者は全体で、70数名を数え、40余名は九州在住、30余名は、福岡近郊在住者です。九州在住者の大半は、支部又はセンター会員に加入しています。第1期生(昭和22年卒)以来、昭和53年卒以前は毎期2~5名の合格者となっています。

又出身職場であるF市役所では、私は現役合格者第1号で、現在OB会を含め、23名です。F市技術士会では毎年会合をもち、全員支部又はセンター会員になっています。近年は毎年2~3名の合格者が出て、今年度は4名合格(筆記試験)しました。私は後輩や知人に受験を勧める際、次のように話しています。

人間、好むと好まざるとにかかわらず、老年になるわけで、老後の生活設計を若いうち

に、一応の目標を立てておくことが、大切であります。学校卒業後の就職先を、20~35年勤務し、50~58歳になり、公的年金(国、地方共済、厚生年金)を受取り、老後の生活をするようになります。生活費は老夫婦2人で一般的に、20万円/月~30万円/月は必要でしょう。年金支給額、15万円/月~30万円/月で現在、40歳~50歳の人が、60歳で給付される額は、20万円以下になると言われています。友達とのつきあい、好きなゴルフ、旅行を楽しむには不足がちだと思います。その対策の1つとして、30歳代後半から、40歳代前半にかけて、技術士(建設部門)の資格を是非取得して下さい。その年代は、仕事も、家庭上の諸問題も大変な時期です。然し目標をもって、例えば、自分の研究成果、意見発表、工事報告、を技術専門誌に発表する努力をすることです。技術士の筆記試験の体験問題は、そのテーマを中心に発表すれば、合格点は取れると思います。私の経験では確実に実現しています。私も一生の間、最も多忙な時に、2~3の専門誌に発表したものを、テーマにし合格しました。

技術士資格を得れば、建設コンサルタント企業では、15万円/月~40万円/月は最低支給するでしょう。現在、F市調達課発注の、測量、建設コンサルタント企業の地元企業(本社F市のもの)は95社ですが、技術士を雇って、建設コンサルタント登録業者は、30数社が実状です。上記の支給額は、当分保証されるものと思われれます。建設コンサルタント登録規定では、技術士が必須条件で各企業は技術士を求めています。若い人々に以上の事を機会ある毎に勧誘する事を提案します。自分の出身母校の同窓会。出身職場の後輩を対象に、会員増強を図ることが有効だと思います。

(私の提言 おわり)

日本技術士会近況

土居 貞夫 (技術士会理事)

まえがき

病氣療養により“技術士だより”第12号・第13号と会員の皆様に、日本技術士会の近況を私なりに筆でお知らせ致すことが出来ず大変失礼致しました。もう10カ月の歳月は流れ、生気を取り戻しましたので、初志貫徹、宜しくご支援戴きますようお願い致します。

はじめに

平成4年度第3回理事会は9月10日(木)に東京本部会議室に於て開催されました。主な審議事項1. 業務委員会(会館設立調査小委員会)委員の委嘱について

「設置の目的」

会館の設置は当会の拡大発展に不可欠であり、四囲の情勢からも、実現が期待されている。

早期実現を期して方策の検討を行うことを目的とする。

として、理事会に於て、当小委員会の委員の委嘱を下記の方々をお願いした。

記

伊藤 慶禧 (建設)	協立エンジニアリング(株) 会長
黒澤 豊樹 (電気・電子)	黒澤R&D技術事務所 所長
黒瀬 正行 (建設・九州支部)	大洋技術開発(株) 代表取締役社長
長友 正治 (機械)	長友機械技術士事務所 所長
本田 尚士 (化学)	館理工学研究所 所長
前田 勇 (機械)	(株) 豊隆研 コンサルタント 代表取締役

審議事項 4. 本部委員会への支部委員の参画について

常設委員会、調査委員会等への支部委員の参加については、支部長の推薦に基づいて所定の手続きを経て実施されることになっている。役員選挙管理委員会を除き、当面下記により実施することとする。

記

(1) 現在の政策、広報委員会のほか、予算等を勘案して他の常設委員会にも支部会員を委員として追加する。

(2) 調査委員会及び特別委員会(細則第31条)については、特に必要とする場合、別途支部から委員の出席を求めるものとする。

(3) 支部からの委員出席に要する交通費については、本部予算から実費を支出する。

この審議は、平成3年度第4回理事会に於て、支部からの要望事項として、秦 庄司(中四国支部)と土居貞夫(九州支部)より、部会幹事選考に関する要望と共に提案して、本件審議の結果、本理事会にて承認されました。審議事項 6. 技術者資格の国際整合性に対して日本技術士会が主体性をもつための措置が審議事項として、渉外委員会の説明と各理事の質疑開陳がなされた。この件につき、続いて第4回理事会にも審議事項として、討議され、現在に於て未だ継続審議中です。

つづいて

平成4年度第4回理事会が11月12日(木)に東京本部会議室に於て開催されました。主な審議事項4. 会員増強のすすめ方について 政策委員会より提案が下記の通り出ましたので、審議事項として、理事会に於て討議がなされた。以下提案を記述し結果を報告致します。

(1) はじめに

当日本技術士会は、総理府の認可を受けた公益法人であり、自然科学分野18部門という広範囲に亘る技術者集団である。その総力を結集すれば、我が国の科学技術政策に大きな影響を及ぼすことができるにもかかわらず、現在の規模は有資格者約27,000人に対し、入会者は約4,300人と漸く16%弱の入会率に止まり、会の目的遂行にも支障をきたす現状である。

この現状を憂い多数の会員の方々から当会拡大即会員増強の必要性、緊急性が機会ある毎頻りに訴えられて来た。

意見、提言の中には技術士が法令で特権業務を獲得し、各種業務への参入の機会の増加を図ろうとするもの、技術士の国家登録と同時に(社)日本技術士会への入会を義務付ける事とするもの等、以前から多くの労力と時間を費やし検討を重ねてきたものも含まれる。しかし、これらの問題は、過去における努力を振り返るまでもなく、技術士制度そのものの基本的見直しに係わるものとして、現段階

＜日本技術士会近況 つづき＞

で到底実現は困難であると考え、問題に固執する事なく実現性、効果等に重点をおいて施策の提言を行うこととした。

結論として、当面の施策については、既存の組織・グループ毎の会員増強運動の推進、また長期的観点から、地域活動の活性化の促進をそれぞれ提案することとした。

なお、本件検討にあたって、種々の立場からの多数の貴重な意見、提言をいただくことが出来た、今後の当会の諸活動を進めるうえでの参考にと考え、それらのうち、主要意見を掲げる事とする。(資料省略)

(2) 検討経緯及び背景

会員増強策は、古くて新しい問題である。団体にとって、会員増強は、団体の理念、運営に係わる基本的問題であるからである。

このことは、日本技術士会においても、過去に設置されていた会員増強対策委員会がより基本的な会のあり方の議論に及び、今日の政策委員会に発展した経緯からもうかがえるところである。

一方、会は新規会員の参入を得て日々、新たな発展を続けており、最近、支部、部会等の各方面で表明されている会員増強を要請する声は無視し得ないものである。

政策委員会としては、このような会員増強の要望に対する会員の声に耳を傾けることが重要であると考え、新たに会員増強小委員会を設置して、この問題について最近、意見、提言を表明している会員を中心に、その詳細な内容を聴取することとした。したがって、会員増強に対する、これまでの当委員会の経緯にもかかわらず、当面、当会の理念・運営のあり方等基本的問題は、切り離して検討することとした。

意見、提言の聴取を通じ、明らかになったことは、技術士は、その業態、立場が非常に多岐にわたっていることを十分に認識して対応すべきであるということである。このことは、会員増強のための運動の推進も会全体で統一的に実施することが困難であることを意味しており、現在、当会内で活動している大小様々なグループ単位で運動を進めることが効果的であると考えに至った。

会員増強が最終的には、個人単位の勧誘であることを考えると、会員増強策を運動のみ

に過度に期待することはできない。長期的な観点に立って、より恒久的な会員増強を図る方策もまた必要である。

現在、技術士の活動が、各種グループ単位での情報交流活動を中心に行われていることを考えると、如何にすれば全会員個人個人がこのような情報交流活動に参画し易いかを考慮して、施策を講ずることが重要である。このような観点から、地域単位での活動を考えると、現在関東圏以外では7支部が中心となって活動を展開しており、各地域の活動の中心拠点となっている。一方、会とは別に、道府県単位でも、それぞれ独自の活動が行われており、このことは、より狭い地域内でのグループ活動が必要であることを意味しており、長期的観点にたつて、会として、地域対策を講ずることが必要であると考えた。

先にも指摘したように、技術士の立場は極めて多様性に富んでおり、その活動形態もまた多様である。このような団体において大切な事は、可能な範囲で、きめ細かく、相互に情報交換、利益享受の便が図られるような施策を講ずる事である。以上で提案の趣旨説明が終了。依って、提案(1)(2)が提出された。

提案(1) 当会の会員構成が極めて多様に富んでいることを考慮して、部会・支部を中心として各種グループ単位で独自に、会員増強運動をすすめることとする。

提案(2) 都府県単位の組織化をすすめ、地方自治体、地域産業との連携の強化をはかる等地域活動の活性化により、会員増強を促進する。

理事会に於て、討議した結果提案(1)を採択、そのすすめ方については次回理事会に於て継続審議することとした。

報告事項(8) 会員・準会員・賛助会員の入退会状況

本部事務局より平成4年10月31日現在の会員数は、次の通り報告

技術士 会員	4 3 7 8 名
“ 準会員A	8 4 名
“ 準会員B	7 2 3 名
賛助会員	2 2 4 名
	以上

☆平成4年度 第2会支部長会議

日時；11月26日（木） 14:00～17:30

場所；（社）日本技術士会会議室

担当支部；中部支部

○議題

<北海道支部> 技術士のPRについて。

<東北支部> 1. 技術士全国大会の運営基準について。

2. 会員増強の具体策について

<北陸支部> 北東アジア（環日本海）技術交流について。

<中部支部> 1. 会員名簿の発行について。

2. 支部事務局の現況を知りたい。

<近畿支部> 1. 地公団セミナーの変更について。

2. 中国研修団訪問等の対応について。

<中四国支部> 1. 韓国土木技術者訪日研修団（私的団体）に対する対応もあり、北東アジア交流の動向を承りたい。

2. 各支部会員の現況と、増強対策をご教示願いたい。

<九州支部> 平成5年度事業計画に“組織の強化促進”を新規項目として盛りこんで戴きたい。

以上、参考に各支部より提案された議題を列挙しました。各支部の一端が伺えると思います。

九州支部より提案致しました“組織の強化促進”についての具体的内容は次の通りです。

1. 本会の地位確立と本会目的達成のため、

↑ 技術士会員の入会を凶る制度を検討する特別委員会を設ける。（会員増強策の具体的検討委員会）

2. 支部組織全体の見直し検討する組織を設ける。（未組織地域の県単位支部設立の動きに対応した検討委員会）。

3. 技術士の地位、権威の確立を凶る組織を設ける。（所謂“P. E論争”に対処する運動組織の確立）

○議題審議結果

組織、会員増強問題については政策委員会が中心となり検討中であり、去る11月12日開催の第4回理事会へ中間報告があった。

要約すると、会員増強については、会員構成が多様であるため、部会、支部、各種グループを中心に進めるとともに横断的連絡会のような組織を設け連絡を密にして推進する。又、政策委員会内部へ新たに会員増強小委員会を設置する。

組織問題については、未組織地域の動きは察知出来るが、将来像が見えて来ない現況では対応できない。地域7支部と県支部の関連づけが問題となる。

その他、全国大会運営の基準については、一応の必要性は感じている。

又、渉外交流については、交流の理念・交流の目的をはっきりしたうえで取組むべきであり、人的交流・技術交流・経済交流と段階的に進めることがベターであると思う。

以上が本部よりの説明と、審議の結果です。

次回第3回支部長会議は九州支部担当で、九州地区で開催する予定となっています。

技術士会九州支部・九州地方技術士センター

📁 行事・会合などの報告

☆支部センター幹部会

日時 平成4年9月12日

場所 博多第一ホテル

出席者 原井支部長、土居理事、水上・青山副支部長、矢野副会長、上野・児玉代表幹事、町田委員長（受験対策）重富総務委員長、古賀事務局長

議事要旨

↑ 1. 本部理事会の概要を土居理事より報告があった。

① 本部設置の常設委員会への参加を各地方から参加できる様、土居理事から提案を行い、当初2～3名を選出する案で検討中である。

② 日本技術士会館の設立についての専門委員会の設置について報告がありました。

＜支部・センター 行事報告 つづき＞

- ③ 日本技術士会への入会が毎年16%程度の増加率であるが、これを30%を目標に全国ベースで増強活動を展開する。
- ④ 地方公共団体職員との合同セミナー開催への本部からの助成金を全国3支部程度とし、30万円ずつの補助を検討中である。(但し3年に1度)
2. 第1回支部長会議(H.4.6.30.)の概要について原井支部長より報告があった。(概要については9月15日号“技術士だより”に掲載)
- ※ 特に問題点として報告されたのがプロフェッショナルエンジニア [P. E] 制度を新たに創設しようという日本工学会、日本学術会議からの提案についてであった。詳報は“技術士”11月号に広報委員会からの“「技術士資格の国際整合性に対して日本技術士会が主体性を持つための措置」について”で会員全員に討議に参加するよう呼びか

- けが掲載されている。
3. 技術士第二次試験の実施状況(8月26、27日)(9月15日“技術士だより”に掲載)
4. 会員増強月間を本年度も10月からスタートする。特に新規合格者に対するP. Rを積極的に展開する。
5. 会員名簿の配布
会員名簿を9月末各県代表幹事を通じて配布した。
6. 地域間交流と異業種交流の取り組み方
事業委員会と活性化委員会の方角づけを検討する。
- ・事業委員会で沖縄支部との接触を企画している。
各地公共団体からのコンサルタント業務発注の受け皿をどうしたらよいか早急に検討する必要がある。
(※ 現在、業務形態として受託しているのは熊本技術センター(青山理事長)のみである。)

☞ 支部・センター 委員会・部会だより

◇ 郷・総務委員会(重富委員長)

- ・平成4年9月16日 於 技術士会事務局、“技術士だより”編集委員会
- ・平成4年9月17日
日本技術士会九州支部 中間会計
九州地方技術士センター 監査
監査委員 山谷三郎委員
完戸 鶴 “
平野道夫 “

により実施はされた。
特に指摘事項はなかった。

- ・今後の予定
平成4年12月4日13:30～(博多セントラルホテル) 会員研修会並びに懇親会
講師、九工大教授 渡辺明先生
福銀国際部長 西田潤也先生

◇ 郷・試験委員会(政野委員長)

1. 平成4年度技術士第一次試験の結果発表

日時	区分	午前	午後
10/1	申込者	63	366
9:30~16:00	受験者	31	246
4室	受験率	50.8%	67.2%

- 試験監督委員原井支部長外8名従事す
合格発表は12月21日(月)発表
2. 平成4年度技術士第二次筆記試験合格者発表 平成4年11月5日(木)
全国1785名 福岡99名
口頭試験11月28日~12月16日東京都内
合格者発表平成5年2月5日(金)

◇ 郷・事業委員会(笠木委員長)

1. 平成4年忘年パーティー並びに研修会
日時平成4年12月4日(金)13:30~19:30
(1)研修会 13:30~16:30
講師渡辺明先生
(コンクリート工学の進歩と近年の課題)
西田潤也先生(東南アジア地域に於ける開発途上国の現況と九州の役割)
- (2)忘年パーティー 16:50~19:30
場所 福岡市中央区渡辺通4-1-2
セントラルホテルフクオカ
2. 平成4年度第一次第二次試験合格者研修会及び会員研修祝賀会
日時 平成5年2月27日(土)13:00~19:00
場所 福岡商工会議所 605、604、B1号室

＜支部・センター委員会部会だよりつづき＞

◇セクター受験対策委員会

(町田委員長)

1. 平成4年第二次試験(口頭試験)
受験対策講座
日時 平成4年11月21日(土) 9:00~17:00
場所 福岡商工会議所604、605号室
受講者52名 講師24名
2. 平成5年第二次受験対策総合講座
第1回講座4月17日(土)
第2回 " 6月12日(土)
第3回 " 6月13日(日) 模擬試験
第4回 " 11月20日(土) 口頭試験対策
会場: 福岡商工会議所

◇セクター研修委員会

(矢野委員長)

事業委員会と共催で実施

◇セクター活性化委員会

(斎藤委員長)

1. 平成4年度第1回委員会
日時 平成4年9月26日(土)14:00~17:00
場所 鹿児島市天文館林田ホテル
出席者 斎藤、真鍋、上野、中山、藤永、吉田6名
(1)経過報告 斎藤委員長
技術抄録及び九州支部センターのパンフレットを作成(来春出版予定)
(2)技術抄録について

- 研究開発の発表的な要素と保有技術紹介の要素との2通りの原稿を要請する。
(3)技術士紹介パンフレットについて
日本技術士会のパンフレットを見本として九州の実態に合うよう直す。
2. 平成4年度第2回委員会
日時 平成4年11月28日(土)14:00~18:00
場所 長崎市セントヒル長崎

◇部会報告

1. 第2部会技術研修見学会
日時 平成4年11月26日(木)10:00~11:30
場所 福岡ドーム球場建設工事現場
内容 我が国初の開閉式ドーム球場の新設工事
参加者38名
2. 第6部会技術研修見学会
日時(A)平成5年1月22日(金)13:30~15:30
" (B)平成5年2月12日(金) " "
場所 日産自動車(株)九州工場
会場 JR日豊線荻田駅の待合室内13:10
開場 2時間
参加者 第6部会員および他部会員
参加費 1,500円(参加者数により変動)
会場 小倉発 荻田着 大分発 荻田着
JR日豊 12:29 12:52 11:20 13:02
開場 日時を(A)か(B)で指定してください
申込先 九州支部事務局
締切日 12月20日(参加者名簿は後日発送)



行事レポート



◇技術士会全国大会に出席して

町田 貞宏佳 (福岡・電気・電子)

ご存じの通り、10月21日に仙台市全国大会が行われたので、私はこれに前後3日間参加した。

スケジュールは20日に市内観光とゴルフコンペ、21日が大会、22日から24日は研修旅行となっており、参加者は本人275名同伴者50名の合計325名で、九州からは内17名であった。

20日の市内観光は東北新幹線の車両整備基地・21世紀プラザ研究センター・他であった。新幹線車両整備基地は東京以北の車両全てを整備しているとの事で、53万㎡の敷

地に250Km/Hの速度で走る車を安全に運行させるための最先端整備技術の粋を誇っており、その技術を間近に興味深く見学させてもらった。また、21世紀プラザ研究センターはテクノポリス計画の主要事業で、3階建て4897㎡の中に色々な研究設備を置きキーパーソンなる指導者まで指名して、各企業の利用者を待つというエーなものであった。21日は研究発表とバルディスカッションを2会場で同時に行う発表会と大会式典及び懇親会を計画されていた。

(次ページにつづく)

＜行事レポート つづき＞

研究発表会では仙台市の地下鉄を総合計画された3部門の資格(機械・電気・建設)を持つ佐藤技術士の地下鉄建設にまつわるきめ細かい配慮(例:直線及び島プラットホーム、右側運転席、駅駅間1回カーブ、地下鉄規模の策定他)他の都市に見られない基本思想の基に構築された実績を聞かせて貰い又、他の発表も夫々独特の主義主張をもった技術開発の紹介であり、技術士の仕事の凄さを改めて見知った感じがした。概要は大会資料を参照願いたい。

記念講演は“海からの文化”という題で東北の歴史を講演戴いたが、口演のみでOHP他視覚による説明は全く無く、九州の遠隔地から来た者には、地名を言われても何処にあるのかさっぱり判らず、難解であった。全体を通じ、技術士の相手に理解させる発表の巧さを改めて実感した。

懇親会は日本全国から志を同じくする人の集まりで、毎年顔を合わせる方々が沢山居られ楽しい一時で有った。正直なところ、全国大会に参加する目的はこの懇親会と翌日から

の研修旅行にあり、全国の技術士諸氏と仲良くなれることにある。1年ぶりに元気な顔をお互いに見せ合い、情報を交換しあい、親しみを増し、金銭では替えられないものを感じて居る。

研修会は時間の都合で1日コースの塩釜から日本三景の一つと言われる松島方面を見学したが、やはり、一日ではもの足りない。即ち同行の人々と一杯やる等懇親を重ねる時間も無く唯景勝を見るだけに終わった。他のコースである2泊3日の研修会は希望者が多く、バス2台を仕立てたとのことで、その気持ちが良く判るし、当然楽しかっただろうと羨ましい限りであった。

以上全国大会に出席した報告をしたが、大会出席の目的を技術士同志の相互親善と割り切れればこんなに楽しい機会はそうざらには無いと言える。大会に出席して色々な情報を掴み仕事に反映できてたら尚良い位の感じで、皆さんも参加されることをお勧めします。来年は静岡だそうです。

行事レポート

◇ 第5回九州地方公共団体職員と技術士との合同セミナー実施報告

小松 栄一 (北九州・経営工学)

主催:(社)日本技術士会
後援:北九州市、(財)北九州国際技術協力協会
☆セミナー

日時:平成4年11月13日(金)13:30~17:50

場所:北九州市小倉北区ひびき荘1Fホール

主題:地域の活性化と環境保全について

主な内容

主催者として、本部から保坂彬夫専務理事に続き、原井東男九州支部長(水上副支部長メッセージ代読)の挨拶のあと、来賓の北九州市環境局・柏木順二環境保全部長より

「産業界進歩発展の担い手として、様々な分野で幅広く活躍されている技術士の皆さんが環境問題をテーマにセミナーを開催されることは時宜を得たものと思う。北九州市は去る6月、ブラジルでの地球サミットにおいて、“国際的な環境リーダーシップ”との理由で地方自治体表彰を受けた。本年8月には市に環境協力センターを設置した。来年は施設30周年に当り“未来元年北九州”のテーマでイ

イベントを行う。…今後の活躍を期待する。」との挨拶であった。

セミナーでは次の講演があった。(敬称略)

- I. 道路事業と環境との調和
建設省九州地方建設局
北九州国道工事事務所
所長 竹中 幸生
- II. 紫川マイタウン・マイリバーの事業説明
北九州市建設局紫川周辺開発室
室長 西田 道雄
- III. 北九州市の環境について
北九州市環境局環境保全部環境管理課
課長 重田 勲次
- IV. これからの公的支援
福岡県工業技術センター
所長 塩沢 孝之
- V. 廃棄物処理技術の紹介と応用
(社)日本技術士会九州支部第1部会長
技術士(機械部門) 田島 積
(次ページにつづく)

<行事レポート つづき>

◎特別講演

「環境問題の展望」

九州工業大学工学部物質項学科教授
理学博士 加藤 安彦先生

笠木事業委員長の閉会のことばで、定刻、
盛会のうちにセミナーを終了した。

☆懇親会 同 18:00~20:00

土居理事の開会挨拶、北九州市の西田室長
の来賓挨拶に続き、九地建竹中所長による乾
杯の音頭で始められた。恒例のアトラクショ
ンは児玉代表幹事指揮する新日鉄マンドリン ↗

↗合奏団の特別参加で行われた。懐かしい古賀
メロディの演奏で、北原技術士の独唱も交え
て素晴らしい音楽のひとつときもあり、歓談の
うちに盃を重ね、楽しく過ごして戴いたもの
と考えております。

やがて、九工大加藤教授の音頭による万歳
三唱、木村委員の閉会挨拶があって、盛会の
うちに名残りを惜しみながら散会した。

別表のように多数の参加を賜り、お陰様で
セミナーと懇親会を有意義に終了できたこと
を深く感謝申し上げて報告を終わります。

①セミナー及び懇親会参加者

②セミナー部門別 (技術士)

区 分	セ ミ ナ ー	懇 親 会	部 門	機 械	電 気 電 子	化 学	金 属	資 源 工 学	建 設	水 道	衛 生 工 学	農 業	経 営 工 学	情 報 工 学	応 用 理 学	合 計
技術士	82	60														
公共団体	8	7														
一般	7	2														
合計	97	69	参加数	9	4	3	2	1	38	7	2	6	5	1	7	85

※注：2部門取得者3名含む

③セミナー地区別 (技術士)

地区	福岡	北九州	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	合計
参加数	23	25	4	8	4	9	6	3	82

◎第5回九州地方公共団体職員と技術士との合同セミナー





行事レポート



会員研修会ならびに平成4年度忘年パーティ実施報告

重富 秀雄(福岡・経営工学)

去る平成4年12月4日(金)、13時30分より福岡市中央区セントラルホテルフクオカで、研修会並びに忘年パーティが開催された。

研修会は出席78名で、2人の講師を迎えて行われたが、要旨は次のとおり。

1. 「コンクリート工学の進歩と近年の話題」 講師 九州工業大学 渡辺 明 教授

1824年、ポルトランドセメントがイギリスのれんが職人によって発明されてから、人工岩石即ちコンクリートの歴史が始まった。その後、パリの植木職人の「鉄筋とコンピを組む」という発想から、弱点の引張りを鉄筋が助け、しかも熱膨張係数が同じであったことも幸いして、1867年鉄筋コンクリート(RC)が出現し、複合材料として出発した。

コンクリートが配偶者として、次にPC鋼材(高張力鋼線)を選び、あらかじめ両端で緊張・加力する、いわゆるプレストレストコンクリートが出現した。コンクリート工学に一大変革をもたらされたわけである。これにより、PCげた橋で浜名大橋(1976年)、PC斜張橋として呼子大橋(1989年)などスパン日本一の記録をつくってきた。

しかし、厳密な耐久性の問題解決に向け、新たな配偶者候補として、目下、ハイテク繊維(ガラス、アラミド、カーボンなど)について検討・試行中で今後の発展が期待されている。

コンクリートは適材適所配置型の合成構造としても発展している。PC合成床版工法は現場の労務事情悪化・専門工不足や高齢化もあって急速に施工実績を拡大している。

話はわが国で初めてコンクリートが出現した1890年(明治23年)からの進歩発展に及び、日本の10年間のコンクリート工事量は欧米の100年分に匹敵すると言われる活況の中で、構造劣化の問題が出てきたこと、材料とともに工法の革新が必要なことなど、興味深い話であったが、紙面の都合で残念ながら、以下割愛させていただきます。

2. 東南アジア地域における

開発途上国の現況と九州の役割
講師 福岡銀行国際部 西田 潤也 部長

◎東南アジアの経済 順調に発展
旧ソビエト・東欧 混乱
アメリカ 底打ち? 新大統領でどう変化
日本 不透明 7~7月マイナス成長

◎東南アジアの成長率 平均7%
中国 10%, NIES 5.数%, ASEAN 6.数%

◎E.Cはこれ以上の成長が期待できないが、東南アジアは遅れているので、外部からの資金がよい方向につながっている

◎東南アジアが順調に経済成長している1つの理由は、東西ドイツの合併(1:1)と違って、通貨レベルの差があるため

◎香港 87,88年経済成長 10%台→インフレ
中国広東省に工場進出

◎中国 経済特区を沿海州に5地区

◎アジアの経済圏 北九州は黄海経済圏

◎ロシア観

10月始め、極東視察団(ハバロフスク、ウラジオストク)

・ソビエトが社会主義国のリーダーとして頑張ってきたツケが大きい。

・建物、道路、港湾、電力など大変な状況

・民間ベースでの取引は慎重さを要する。

◎九州の役割 香港に住んで、日本を見る

・香港人は日本の都市は東京、大阪ぐらいで福岡は殆どの人か知らない。

・福岡の独りよがり-福岡の発展にウェイトを置いた発想でアジアを見る

◎国際化 相手の気持ちを良く分かって、国際化に向けた努力が必要

☆平成4年度忘年パーティ 出席者55名

原井支部長の開会のことば、遠来の鹿児島上野代表幹事の乾杯の音頭で始められた。和やかな懇親歓談のうちに、飛び入りの尺八演奏、カラオケなどでときを過ごし、定刻矢野副会長の音頭で万歳三唱のあと、新城副会長の閉会の言葉で名残を惜しみつつ散会した。

以上

第2・4部会合同の技術研修見学会が去る8月21日(金)島原市及び南高来郡深江町方面に、一泊旅行の形式で催された。空は噴煙で霞んでいたが、見学日和の良い天気であった。参加者は13名、島原半島の両側、福岡県及び熊本市と、長崎市から集まった。

島原外港に近い旅館海望荘に昼前に集合、顔合わせを兼ねた昼食をとった。以降の移動は全て旅館のマイクロバスのお世話になる。

最初に島原城そばの長崎県島原振興局を訪ね、担当部長から雲仙岳火山活動、噴火による被災、災害復興対策の各状況につき、資料を用いて説明頂いた。砂防ダムや遊砂池の設置等、大規模で緊急性を要する工事故に、ご苦労は技術上の問題より用地買収に係わる土地所有者の説得にあるとお話だった。

庁内の被災者相談の掲示に、長期災害が被災者の生業に大きな影響をもたらしていることを改めて感じさせられた。図面を携え行き来する職員の姿や、地元の方達の頻繁な出入りに、復興への息吹を感じながら、庁舎を後に再びマイクロバスの人となった。

近藤専門官にご案内を頂き、国道251号線を水無川に向かった。土砂止めに道の両側に沿って白い土袋が積まれていた。土石流で溢れた土砂が一面に堆積したのであろう、道路部分の土砂は排除されていたが、道路の両側の地面は一段高くなっていた。水無川に近づくに従いその高さが増し、バスの窓から見たところでは1メートル位もあっただろうか。丁度、豪雪地帯の積雪を連想させる様相を呈していた。土砂に埋もれた畑や庭、立ち壊れの家屋等、マスコミで報道され尽くされた情景だが、やはり実際に見るのとは大違いと言う声が参加者の中から聞かれた。

水無川に架かる橋の付近で下車した。集中豪雨による土石流で、川底は橋桁のすぐ下の高さまで上がり、何台ものブルドーザーが堆積土砂を掻き上げ、ダンプカーの列がそれを、

ピストン輸送していた。水無川の上流方向を眺めると、灰色の空間から茶褐色の雄大なスロープが坏気味に展開していた。上の方に在る筈の普賢岳の溶岩ドームや山頂は、灰色の空の中に溶け込んで見えなかった。堆積土砂の量と、排除に投入されている作業量を思う時、大規模な土木事業も、大自然の暴威の前には隔離搔痒の感を免れなかった。

次に、国道57号線に入り、普賢岳火口が2キロメートルの近さに迫る深江川上流の砂防ダムを見学した。谷間を堰止める格好で、熱風の風圧を逃がすため格子状に組まれた巨大な鉄の壁である。火砕流の熱風は、かなり太い樹木も薙倒す等、想像以上のエネルギーを持っているとのこと。ダム横の今は人の気配の無いレストランの建物が小さく見える。山頂方向に2~300メートル先に設けられたもう一基のダムの先の一群の樹木が、赤茶けて見えたが、熱風の襲った跡とか。火砕流のシェルターに用いたコンテナが残されている等、工事中的ご苦労が窺われた。

ご多忙に拘らず、ご説明、ご案内を賜った振興局の方々に感謝しつつ宿に戻った。

熱い温泉で汗と火山灰を洗い落とし、夏の夕べは未だ明るかったが、地元長崎県田中先生の歓迎会夢で懇親会が始まった。ここが往年の常宿であったという矢野先生のさりりとした秀逸のパフォーマンスに、宴は最高に盛り上がり、夜は静かに更けていった。

当初、疲弊した街の雰囲気想像していたが、人々の様子は明るく、災害を克服しようとするエネルギーが感じられた。しかし、泊まった宿に目立つ空き部屋や、一日中火山灰で曇っている空模様を見るとき、地元の方のご苦労が窺われ、火山活動が一日も早く終息することを祈りつつ島原を後にした。

今回の催しは、諸先生方の地縁、職縁のお陰で、幹事役久保田先生の気配りとも相まって、有意義で印象深いものとなった。

以上



随想



第2部会活動への想い

久保田 信一（第2部会幹事・福岡・建設及び農業）

福岡ドーム球場建設工事現場の見学会を11月26日に再度催した。去る4月20日開催の参加者から、完成直前に今一度見学したいとの声を数多く聞かされたことによる企画実施であったが、朝方の降雨で、当日は今季最低の気温を記録するあいにくの天候となった。見学用施設の小型ドームでスライドと模型による説明を受けた後、来春3月の完成を間近に見せる工事現場にて、ガイドの説明を聞く66の耳と目には感激に満ちていることが、参加者33名の肌寒さにふるえた口から発せられる感嘆の声にて確認された。盛会裡に挙げてきた旨、評価できるであろう。ただ、参加者60名程を予想していたのに、半数位であったことか残念な想いではある。多忙な時期の平日に、しかも午前中だったのが大きく影響しているかと、参加申込者41名中から8名の欠席者を生んだ経緯が半断させて呉れる。

平成4年の4回にわたる第2部会技術研修会を、以下に要約列挙してみる。

(1) 講演会及び懇親会

（於：福岡商工会議所）

「上水道の現状と今後の課題」

弓削田 耕一 先生

「手相見の日本語、良い女とは」

矢野 友厚 先生

懇親宴会：以上第4部会共催、3月7日

視点①福岡市の節水型都市づくり、及び

フレッシュ水道構築への国の動き

②手相と良い女を研究する観点から、

技術者の生き方の追求

参加者：申込数26名中欠席者8名

(2) 福岡ドーム球場建設現場（於：福岡市）

「我が国初の開閉式屋根球場の建設工事」

視点：①コンピュータ制御大規模屋根の

開閉

②自然採光と人工照明の光環境制御

③大建築空間の音響と空調の制御

参加者：申込数65名中16名欠席、4月20日

(3) 雲仙普賢岳噴火被災地の見学

（於：島原市）

「被害状況と復興計画」長崎県島原復興局

懇親会：宴会と宿泊(旅館海望荘)8月21日

視点①火砕流被害の状況

②防災、復興対策の現状

参加者：申込数18名中5名欠席

(4) 福岡ドーム球場建設現場（於：福岡市）

前記(2)を再度、11月26日

参加者：申込数41名中8名欠席

これらの内容を吟味すれば、次のような2つの懸念が抱かされてならない。

第一は、欠席者の多いことである。参加申込み後に不都合を生じて連絡下さる方と無届けのままに当日欠席なさる方が毎回少なくないことは、会員諸氏の多忙に起因するたろう。研修会期日の設定に当っては、万障繰り合わせのため易い時期と日時を選ぶことが肝要である旨、改善余地の内在を反省させられる想いである。

第二は、部会員の参加者が少ないことである。全部会員に対する会員参加の比率は10～30%位に過ぎないこと、支部会員である部会員よりもセンター会員の参加数が多いことの2点について課題を内蔵している。部会催し事に対する無関心派部会員の興味を向上させるような、魅力あるテーマの選定が不可欠なことを痛感される想いである。加えて、九州地方技術士センター会員の日本技術士会への入会勧誘を、未入会技術士の方々の入会の勧めと共に要する旨、想いを強く抱かされる。

部会員相互の親睦をより強固にすると共に、日進月歩の技術の情報交換の場・研修の場にしたこと、並びに支部活性化の一助にしたいという、部会結成の目的を完遂させたい。会員の皆様のご協力を切望してやまない想いである。

以上

技術動向 石炭灰による人工軽量骨材の製造技術 (廃棄物の再資源化技術)

—エネルギー・資源学会第5回技術賞受賞—

是石 俊文 (福岡・建設)

この報文は、九州電力(株)取締役火力部長石井國義氏、(株)神戸製鋼所エネルギー・化学本部次長佐藤茂樹氏、同本部課長照喜名二郎氏との連名で、技術賞内容紹介としてエネルギー・資源 VOL.13 NO.4 1992,7 誌上に発表されたものの要約である。

1. はじめに

大型石炭専焼火力発電所においては、発電用に使用される石炭の15~20%が石炭灰として発生し、その処理としてセメント混和材や肥料として一部利用される他は、大部分が陸上または海面の灰捨場にて埋立処分される。しかし、適正灰捨場の減少や環境保全面等から灰捨場の確保が難しくなっており、更には、少資源国として資源の有効活用を図る上からも、石炭灰の有効活用を積極的に推進する必要性が高まってきている。

九州電力(株)と(株)神戸製鋼所は、これらの社会的背景に基づき、石炭灰の大量有効利用を図るため、石炭灰中の未燃焼炭素分を有効に利用する自燃型焼成システムというべき石炭灰の人工軽量骨材製造技術について共同研究を実施し、この技術を確認した。

そして、昭和58(1983)年には九州電力(株)大

村発電所構内に処理能力 12T/Hの「石炭灰利用人工軽量骨材製造プラント」を建設し、昭和60(1985)年6月構造用人工軽量骨材として建設省の認定を取得、「エフエイライト」の商品名で販売を開始した。

2. 原料石炭灰

「エフエイライト」は、石炭灰のうち最も発生量の多い(約70~80%)フライアッシュを原料とするものである。このフライアッシュの性状は比重1.9~2.2, プレーン1600~2100cm²/g, 未燃炭素2~4%, SiO₂ 50~75%などである。

3. プロセス

「エフエイライト」製造プラントのフローシートを図-1に示す。<次ページに続く>

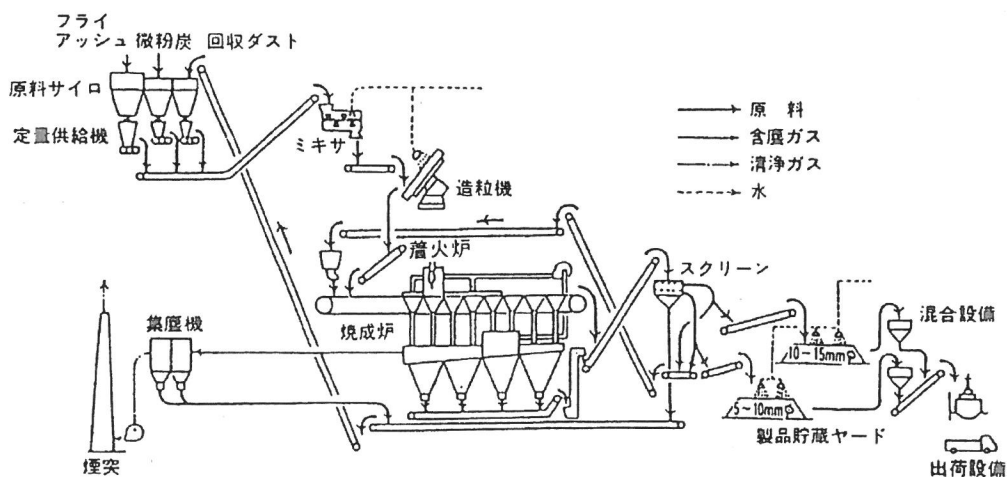
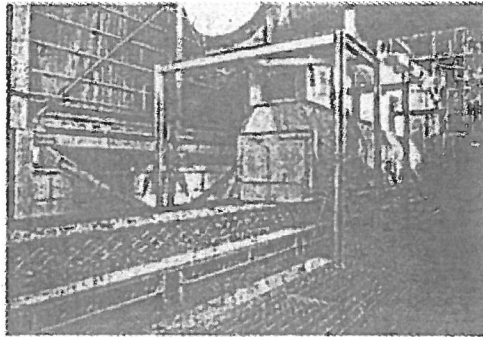


図-1 自燃型焼成システムフローシート

<技術動向 つづき>



写1 焼成炉

原料となる石炭灰（フライアッシュ）は、発電ボイラ用灰処理設備より空気輸送にてサイロに送られる。燃料源となる微粉炭も発電ボイラ用ミル（微粉炭機）出口から分流して、やはり空気輸送により微粉炭サイロへと送られる。

サイロより設定された切出量が排出され、コンベヤによりミキサへと搬送され、ここで適量の水が添加されて混合・混練され、調整されたフライアッシュが造粒機（パン型）へと運ばれる。造粒機で直径5～15mmを目標に造粒され焼成炉へと送られる。

焼成炉(写真-1)はドワイトロイド式で、パレットと称する鉄製格子の底面をエンドレスベルト状に継いで、レール上をスプロケットホイールにより運転移動させる。パレットは常に移動しつづいて一端で生ベレットが供給され、続いてそれらが乾燥帯で乾燥・余熱されたあと、着火帯で表層面に点火され、移動中に下向きに通風焼成される。その際、まず着火炉によって生ベレット表面に着火され焼成反応が始まる。着火後は焼成原料層を通じて下部ウインドボックスにより強制吸引される空気と原料中の未燃焼炭素分との燃焼熱によって生ベレットは物理的・化学的変化を受け焼成固化されていく。この状況を図-2に模式的に示す。

このようにして排出部までに全層厚にわたって焼成反応が完了し排出されたあと、篩分け工程を経て5～15mmのものは製品ヤードへ送られ、15mm以上のものは系外へ排出され、5mm以下のものは回収ダストとして回収ダストサイロへ戻される。

4. 「エフエイライト」の性質

人工軽量骨材の品質は、構造用軽量コンクリート骨材（JIS A 5002）に規定されている。

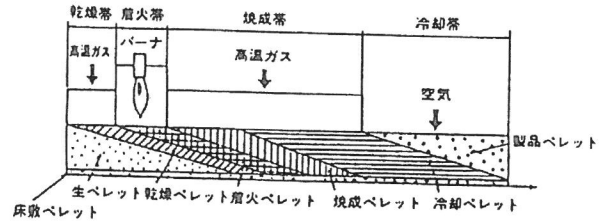


図-2 焼成炉上における焼成状態

表1 エフエイライトの物理的性質及び管理基準

項目	エフエイライト	管理基準
絶乾比重	1.35	1.34±0.04
24時間吸水率 (%)	16.3	18以下
単位容積質量 (kg/ℓ)	0.83	0.825±0.030 (ジッキング法)
実積率 (%)	61.4	60以上
粒度 (通過百分率)	20mm	100
	15	100
	10	47
	5	0
強熱減量 (%)	0.8	1以下
三酸化硫黄 (%)	0.2	0.5以下
塩化物 (NaClとして) (%)	0.001	0.01以下
有機不純物	無色	試験溶液の色が標準色より濃くないこと
安定性 (%)	4.3	—
粘土塊 (%)	0.44	1
浮遊率 (%)	0	10以下
BS破砕値	40T (%)	32
	10% (T)	11
コンクリートとしての圧縮強度 (kg f/cm ²)	468	1種軽量 400以上
	435	2種軽量 400以上
コンクリートの単位容積質量 (kg/ℓ)	1.99	1種軽量 1.8以上 2.0未満
	1.79	2種軽量 1.6以上 1.8未満
建設省指発第32号C調合 (kg f/m ³)	351	280以上

「エフエイライト」の物理的性質は表-1に示すとおりである。JIS A 5002では、材料・絶乾比重・実積率・コンクリートの単位容積質量において区分することが定められており、これに従うと「エフエイライト」の呼び方は、人工軽量粗骨材MA-419（川砂）、MA-417（人工軽量細骨材）となる。また、「エフエイライト」使用コンクリートの性能は、施工性・ <次ページに続く>

<技術動向 つづき>

構造部材性状・耐久性及び居住性のいずれの面においても、従来の人工軽量骨材や天然粗骨材を使用したコンクリートと同等以上であることを確認している。(図-3)

5. 使用実績

軽量骨材は建築物の軽量化ができるため、基礎工事費の低減を図ることを目的として高層ビル建設に使用されているが、このほかにも軽量カーテンウォールや軽量ブロックなどコンクリート二次製品用骨材として使用されている。

エフエイライトを使用したコンクリートの施工例としては、福岡市の「朝日プラザ天神」「福岡市庁舎」、北九州市の「リーガロイヤルホテル小倉(30階建)」などを始め、九州各地の高層ビル建設への使用実績は相当数を数えている。これに対応して、平成3年度の販売量は54,000m³に達している。

6. むすび

「エフエイライト」の製造技術は、有限資源である膨張けつ岩を原料としてロータリーキルンで製造する既存の方法に比べ、原料は産業廃棄物である石炭灰を有効利用していること、また石炭灰中の残存未燃焼炭素分を有効に利用しているため燃料使用量が少ないこと等の特徴を持っている。

従って、本製造技術は石炭火力発電所における灰捨量を減少し、灰捨場の延命を可能にするとともに、産業廃棄物の再資源化に大きく貢献できるものである。

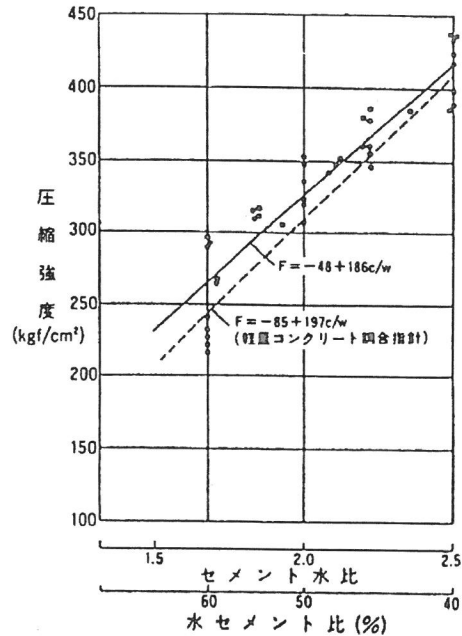


図-3 水セメント比と圧縮強度の関係(材令28日)
(エフエイライト1種コンクリート)

参考文献

- 1) 石井國義; 石炭灰利用による人工軽量骨材製造, 燃料協会誌第69巻11号(1990), 1022~1027
- 2) 佐藤茂樹, 若林明, 照喜名二郎; 石炭灰による人工軽量骨材の製造, 資源処理技術第38巻4号(1991), 185~190
- 3) 是石俊文, 岡範彦, 杉田英明; 石炭灰利用人工軽量粗骨材およびそれを用いたコンクリートの諸性質, 電力土木 No.204(1986) 51~61

<技術動向 おわり>



会員 ニュース



★(社)日本技術士会 会員, 九州地方技術士センター 正会員 監事, 福岡地区・建設部門 川江直敏先生が 平成4年10月30日逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

☆(社)日本技術士会(九州支部)入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(技術部門)	(連絡先)
福岡	頤	宮崎 和英	化学	〒814-01 福岡市城南区東油山4-7-3-2203
"	"	野々瀬昌宏	応用理学	〒816 春日市泉3-6
北九州	"	樋口 允宏	金属	〒807 北九州市八幡西区光貞台3-3-17
熊本	"	下川 清	農業	〒861-41 熊本市島町711-16

☆☆九州地方技術士センター入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(技術部門)	(連絡先)
福岡	正領	松岡 信明	応用理学	〒811-02 福岡市東区奈多団地8-301
"	"	北村 敬司	建設	〒819 福岡市西区下山門1-20-14-207
"	"	酒井 哲夫	"	〒813 福岡市東区香住ヶ丘6-29-10
"	"	倉岡 豊	"	〒816 春日市紅葉ヶ丘東7-11-3
熊本	"	出田 午郎	農業	〒862 熊本市武蔵ヶ丘1-411-9
宮崎	"	小坂 晃	建設	〒880 宮崎市宮田町10-19
"	"	西田 靖	"	〒880 宮崎市生目台東2-4-4
鹿児島	"	四元 節夫	農業	〒892 鹿児島市大明丘2-10-1
北九州	"	三原 誠	情報処理	〒807 北九州市八幡西区泉ヶ浦2-16-21
大分	"	二宮 和生	水道	〒874 別府市石垣東10-8-6

☆☆日本技術士会(九州支部)退会

(地区)	(区分)	(氏名)	(技術部門)
長崎	正領	杉本 徳博	農業
福岡	"	川江 直敏	建設

-受付順、敬称略-

☆☆九州地方技術士センター退会

(地区)	(区分)	(氏名)	(技術部門)
福岡	正領	大沢 正明	衛生工学
"	"	川江 直敏	建設
"	"	原田 太郎	資源工学
熊本	"	緒方 斉	農業

<会員ニュース おわり>

◇“会誌”技術士”最近号の主要目次

☆10月号

- ・私の技術士業務
どうしてこうなり、こうしているのか
/鈴木 清
- ・研修のページ
現代温泉探査考 /畠中 武文
初めて立候補して /堀 泰明

☆11月号

- ・私の技術士業務
生産技術大国日本を下支えしている
生産技術と技術士としての私のかかわり
/久本 方
業界別活動「プラスチックグループ」
/青葉 堯
- ・研修のページ あまり知られていない
PETフィルムの配向むら /木次 恭一

☆12月号

- ・第19回技術士全国大会速報
- ・研修のページ
中波(AM)ステレオ放送解説
/澤栗 裕二
高速運転と過積載トラックの危険性
/鯉坂 卓之

★投稿を募る★

技術研究論文・技術士の主張・賛助会員会社の紹介など、技術的なことは勿論会員の受賞などのニュースもお願いします。積極的な皆さんの投稿をお待ちしております。(200字詰め原稿用紙2~3枚程度を目安に願います。支部事務局宛)

✍ 編集後言己 🖨

今年もさまざまのニュースがありました。夏の甲子園“連続四球”、毛利さんの“宇宙実験”、ガリレオの復権……。技術士会・センターではいかが？ 師走に想う。(小)
年末を迎え、年の始めの抱負の達成度が気になるこの頃です。今年はYCE福岡で、多くの技術士の方々と酒をくみかわし、交流を深められたことが印象に残っている。(棚)

発行：(社)日本技術士会・九州支部
九州地方技術士センター
〒810 福岡市中央区大名1丁目
12-61 新天ビル402
☎(092)771-9534
編集：九州支部・総務委員会